

Ⅲ 資源循環工場の効果・課題の整理と今後の取組

操業後1年間の運営状況における主な効果・課題を整理するとともに、今後の取組を検討していきます。

1 資源循環工場の効果

◇ 廃棄物の適正処理とリサイクルの普及に大きな役割を果たしている。

操業後1年間で約17万トンの廃棄物を受け入れ93%をリサイクルしています。また、19年度には、58市町村が利用しており、市町村のリサイクル施策の促進にも役立っています。

資源循環工場には、年間1万4千人もの見学者が訪れており、社会的な関心も高く、また、リサイクル意識の普及などにも役立っています。

◇ 適正な役割分担のもと、民間の活力を生かした事業となっている。

県と民間との適正な役割分担のもと、PFIや借地権を活用し、民間の資金力・技術力・経営力を生かした運営が行われています。

◇ 公共関与による住民合意と安全管理が機能し、事業が進められている。

公共の関与により、住民合意形成や社会的信用力の向上に繋がっています。民間事業者からは、施設整備や運営がスムーズに行われ、また取引先からの評価も高いとの意見を得ています。また地域住民のアンケートから公共関与が安心・安全に繋がっているとの一定の評価を得ています。

◇ 産業集積により、事業条件の向上に繋がっている。

産業の集積により、情報の共有や、事業分担による効率化、営業の相乗効果など、運営の向上に繋がるとの評価を得ています。

◇ 高度な環境対策を講じ、環境に配慮した運営に努めている。

ダイオキシン類や緑地率など法令を上回る厳しい施設条件や、住民監視員による運営参加など、先進的な環境対策を行っています。

また、県による121項目の周辺環境の測定や、未然防止の観点から環境基準を参考基準とした評価方法など、環境に配慮した運営に努めています。